唐津シネマの会×やきもん祭り

佐賀ん酒を片手に楽しむ上映会＆座談会

-これが本当のシネマコンプレックス!?-

4月29日（月・祝）～5月5日（日）に唐津市中心市街地で開催される「やきもん祭り」。
そこに唐津シネマの会も参戦！ 5月4日（土）は、唐津で老舗の旅館綿屋で上映会＋
陶芸家梶原氏によるトーク＋唐津焼きで 楽しむ地酒&新酒の会を企画。

CINEMA

1914年、日本が韓国を併合してから４年の朝鮮半島。日本人「浅川巧」と朝鮮人「イ・チョンリム」は、林業技師として荒廃した山々を緑に戻すため、ともに歩き、共に分かち合い、特別な友情を育んでいく。しかし、ある事件がきっかけで、チョンリムは抗日運動の容疑で投獄されてしまう。時代が生んだ哀しい運命に抗おうとする浅川巧。果たして二人の行方は・・・。史実から生まれた感動のヒューマンストーリー。
主演は吉沢悠とペ・スピン。日韓の実力派俳優の共演が実現！

道～白磁の人～ HP http://hakujinohito.com/
119分／2012年／日本

×

TALK

おおたにとうぼう はんどうがめかま
大谷陶房 飯洞甕窯

古唐津研究会代表
かじはらやすもと
梶原靖元さん

映画では、主人公「浅川巧」が京城（現ソウル）に渡り、そこで出会った朝鮮の工芸品・白磁の美しさに強くひかれ研究をします。私も唐津焼きのルーツでもある韓国へ留学経験があります。この機会に映画と合わせて、唐津焼の魅力をより深く楽しんでもらえればと思います。

×

SAKE

綿屋の料理と一緒に楽しむ「佐賀ん酒」

座談会の後は、唐津の素材を使った旅館綿屋の料理と、「鍋島」、「東一」、「万齢」、「太閤」、「天吹」など佐賀を代表する地酒 ＆新酒を唐津焼で味わって下さい！（協力：古唐津研究会）

明治 38 年、炭鉱で財をなした田代政平の私邸が前身。貴重な木層 3 階建て、迫力ある大屋根、手入れの行き届いた庭と当時のままの洋館がみどころ。

旅館綿屋
〒847-0012 佐賀県唐津市大名小路 5-10
TEL：0955-72-4181

EVENT INFOMATION

古唐津研究会も協賛した映画「道～白磁の人～」上映会

日程 **4月27日（土）** 14：00～16：00
5月4日（水） 14：00～16：00 / 18：30～20：30

場所 **オーテビル**

映画鑑賞料金 会員：**無料**
一般：通常1000円→**500円**（期間割引料金）

※オーテビルで「道～白磁の人～」を観た方にもれなく5月4日の下記イベント参加費500円OFFのクーポン券をプレゼント。

日程 **5月4日（水）** 14：00～16：00 上映会
16：30～座談会＆お酒の会

料金 **3,000円**（映画鑑賞料金・飲食込み 要予約） 場所 **旅館綿屋**

申込＆問合せ **唐津シネマの会事務局：0955-72-3278**

やきもん祭りイベント情報

日程 **4月29日（月祝）～5月5日（日）**

会場 **唐津市中心市街地**
（旧唐津銀行、アルピノ、ギャラリー魚や町、埋門ノ館ほか）

■日韓やきもん交流展 ■春の唐津焼展 ■若手陶芸家の唐津焼スタジアム

食と器の「ぐい呑み列車」、唐津焼テーブルコーディネート展、唐津焼によるランチ提供、唐津焼ツアー、日韓交流茶会、まちなかマルシェ、絵付け＆ロクロ体験、などイベント多数開催。
※初日の4月29日は唐津神社「春季例大祭」を開催（唐津くんちの曳山が大集結）。

主催／唐津やきもん祭り実行委員会
お問合せは、唐津商工会議所まで 0955-72-5141
詳しい内容は、唐津やきもん祭り を検索
おでかけは、地下鉄・JR・高速バスで。（最寄駅：JR唐津駅、最寄バス停：大手口バスセンター）

クラシック名画集

あの日あの時あの人と

アメリカのポピュラーソングを主題歌にしたミュージカル映画。ドン・ロックウッド（ジーン・ケリー）とコスモ・ブラウン（ドナルド・オコナー）の２人はヴォードヴィルの人気者で、仲の良い友達同士。1920年代、２人はハリウッドにやってきて、とある撮影所で仕事を見つけるところからストーリーが始まる。特にジーン・ケリーが土砂降りの雨の中で主題歌を歌いながらタップダンスを踊る場面は映画史に残る名シーンとされる。

雨に唄えば
103分／1952年／アメリカ合衆国

頃は1890年の初夏。ワイオミングの高原に一人の旅人が飄然とやってきた。男は移住民の一人であるジョーイの家で水をもらい、家族の好意で一晩泊めてもらう事に。男は名をシェーンと名乗った。当時、この作品の格闘描写が画期的な暴力的で激しいものであり、話題になった。ラストシーンで「シェーン、カムバック！」と必死でひきとめるジョーイの叫びを背景に、シェーンはワイオミングの山へと馬に乗り去っていく。

シェーン
118分／1953年／アメリカ合衆国

映画の舞台はサーカス。そしてその中央リングで競い合う3人の男女が主人公である。３人の繰り広げる三角関係のラブストーリーと並行し、ドキュメンタリータッチとも言える迫真のアクロバットシーンが交錯する。映画の終盤で、公演ツアーの移動をするサーカス団を乗せた列車に予期せぬ事態が。豪華な衣装でのサーカスシーンは実にきらびやかである。娯楽映画の神髄とも言われる52年アカデミー作品・原案賞受賞作。

地上最大のショウ
152分／1952年／アメリカ合衆国

ボクのうんちく

a man of profound knowledge

まず共通しているのはすべてハリウッド全盛期の映画だということ。敗戦後の日本人はこういう映画を観てアメリカってすごい国だなと思ったものです。

「地上最大のショウ」は、この後「十戒」という大作を作った、セシル・B・デミル監督の作品で、サーカスの内幕をドキュメンタリータッチのドラマとして作ったスペクタクル映画です。特に空中ブランコのシーンや列車事故の場面は迫力のあるところです。私はこの映画からF・フェリーニの映画やディズニーの「ダンボ」を思い浮かべました。

次に「シェーン」。最後の撃ち合いがすごいですね。早撃ちですね。小学校の頃よく西部劇ごっこをしていたものです。そしてラストシーン、ワイオミングの山々に響くジョーイ少年の叫び声は本当に胸をうちます。なんか長谷川伸が描く「股旅物」を思うのは、私だけでしょうか。

最後の「雨に唄えば」。これは、ミュージカル映画の傑作でしょう。サイレント映画からトーキーへ移行する時代のハリウッドを描きながら、楽しいダンスシーン満載の作品です。例の雨の中で傘を持って踊るJ・ケリーの姿は、今でもあの音楽と共に印象深いところです。最後に「シェーン」を観て感じたこと。古き良き時代は振り返ることはできるけど、決しては戻ってはこない。ということです。おしまい

まつかねつねお
松金恒雄さん
唐津シネマの会サークル部員